

シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会年表

各項目の左の数字は月を示す。○は月が不明の項目。日が分かるものは（）内に日を示した。「関連事項」は、日本原子力研究所の年表「原研35年のあゆみ」（1991）を参考にした。「シグマ委員会関係」には、シグマ委員会と核データセンター関係の事項を、「関連事項」にはそれ以外を記した。関連国際会議は、主要なものだけとし、専門家会議等は省略した。シグマ委員会または核データセンターが主催した会合はシグマ委員会関係の欄に記した。日本原子力学会は「学会」と記した。不備な点があったら原研核データセンターまで連絡してください。

年	シグマ委員会関係	関連事項
1963	1 昭和38年度原子力平和利用研究委託費（核定数に關する試験研究のため）を受けるため、学会に「シグマ委員会」の設立準備（19、26日、対策小委） 1 学会理事会「シグマ（臨時）専門委員会」設置を承認（28日） 2 原研「シグマ研究委員会」設置（28日） 2 学会「シグマ専門委員会」第1回会合（14日） 高速グループ、共鳴グループ、熱中性子グループにより、活動開始 4 学会「シグマ（臨時）専門委員会」設置 ○ 国内研究機関の設備リスト作成 ○ ELIESE、STEVE 等の理論計算コード作成、熱中性子散乱断面積計算コード作成、共鳴パラメータの収集を開始	1 武蔵工大研究炉臨界（30日） 5 IAEA の INDSWG 第1回会合（27～31、Vienna）に出席 8 日本原子力船開発事業団発足（17日） 8 原研 JPDR 臨界（22日12:41） ○ 原研 IBM7044 導入（主記憶 32kW） ○ 英国 AWRE Aldermaston と AEE Winfrith で評価済核データライブラリーを編集
1964	2 「核定数」は「核データ」と言い替えることにする 4 CINDA グループ発足 ○ データシートによるデータ収集を開始、1969年3月まで継続する 12 炉定数グループ発足（22日第1回会合） 12 学会企画委に核データセンター設立について説明	4 日本 OECD に加盟 5 ENEA/CCDN（中性子データ編集センター）発足 5 IAEA による初めての国内原子力施設査察 6 京大炉臨界（25日）
1965	4 データシートによる文献収集を本格的に始める 6 学会企画委「シグマ特別専門委員会」設置を承認（15日） 8 「高速中性子断面積研究会」（24～26日、原研東海） 10 学会「シグマ特別専門委員会」設置 ○ 熱中性子散乱断面積の評価開始（～1968年まで） ○ 国内研究機関の設備リスト改訂	1 原研 JRR-4 臨界（4日 3:15） 2 OECD/ENEA に準加盟（23日） 5 原電東海炉臨界 5 EANDC 第8回会合（Los Alamos）に出席 6 日本 EANDC のメンバーとなる 9 第4回 INDSWG 会議（10～17日、東京） 12 「Nuclear Data、Section A」創刊

年	シグマ委員会関係	関連事項
1966	<ul style="list-style-type: none"> 3 「JNDC ニュース」創刊 3 EANDC へのプログレスレポート作成、以後毎年作成している 6 原研 JPDR 関係者からの要請により、軽水炉燃焼計算用炉定数作成（～8月まで） 8 「第2回高速中性子断面積研究会」（18～20日、原研東海） 9 日本の測定要求リストまとめる 11 C の全断面積評価開始（国内初の核データ評価） ○ PROF GROUCH 等の炉定数作成コード作成 	<ul style="list-style-type: none"> 1 日本 ENEA/CCDN と ENEA/CPL に加盟 2 「Nuclear Data, Section B」創刊 3 Conf. Neutron Cross-Section Technology（22～24日、Washington） 10 1st IAEA Conf. Nuclear Data for Reactors（17～21日、Paris）
1967	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「核データセンター構想」について検討 7 NAIG、MAPI、日立から原研理事長に核データセンター設立要望書提出（20日） 7 学会より原子力局長宛に「核データの収集・整備の機関設立に関する要望書」でる（25日） ○ 14 MeV 中性子による反応断面積評価を行う ○ UKNDL、ENDF/B を入手 	<ul style="list-style-type: none"> 1 理研サイクロトン完成（25日） 1 フランスの高速増殖炉 RAPSODIE 臨界（28日） 4 原研大洗研設置 4 原研 FCA 臨界（29日） 10 動燃事業団発足（2日） 10 IAEA 事務総長 INDC の設置を認める ○ 英国 UKNDL-67 公開 ○ 「Table of Isotopes、第6版」発行
1968	<ul style="list-style-type: none"> 2 「中性子断面積研究会」（15～17日、原研東海） 3 熱中性子散乱に関する文献目録出版 3 熱中性子炉用炉定数 JNDC セット No.1 作成 6 原研物理部に「核データ研究室」設置（1日） ○ 熱中性子散乱断面積の評価終了 	<ul style="list-style-type: none"> 1 西独原子力船オットーハーン号就航 2 4 センター設立に関する打ち合わせ（Saclay） 3 2nd Conf. Nuclear Cross-Sections and Technology（4～7日、Washington） 3 原研 JMTR 臨界（30日） 5 INDC 第1回会合に出席 7 米国 ENDF/B-I 公開 ○ CCDN、核データ測定の要求リスト（RENDA）作成開始
1969	<ul style="list-style-type: none"> 2 「第2回中性子断面積研究会」（13、14日、原研） 5 「核データ情報・評価専門部会」、「炉定数専門部会」発足 10 高速炉用炉定数 JAERI Fast Set 完成 	<ul style="list-style-type: none"> 5 米国高速実験炉 SEFOR 臨界（3日） 6 原子力船「むつ」進水（12日） ○ 原研 FACOM 230-60 を導入（主記憶 64kW）
1970	<ul style="list-style-type: none"> ○ ENDF/B-II 入手 ○ 評価作業開始（$^{238}\text{U}(n,n')$、Cr、Fe、Ni の捕獲断面積） 	<ul style="list-style-type: none"> 3 原研 JRR-1 解体 8 米国 ENDF/B-II 公開 6 2nd IAEA Conf. Nuclear Data for Reactors（15～19日、Helsinki） 7 4 センター組織によるデータの交換開始

年	シグマ委員会関係	関連事項
1971	3 熱中性子炉用 FP 炉定数完成 4 「核データ情報・評価専門部会」は「核データ専門部会」となる 5 「JAERI Fast Set の作成」学会特賞受賞(27日) 12 JENDL 0 次版の案検討 ○ 重核、構造材核種の核データ評価開始 ○ 28 FP核種の核データ評価開始 ○ 評価済核データの処理コード、実験データ格納検索システム作成開始	3 3rd Conf. Neutron Cross Sections and Technology (15~17日、Knoxville) 4 東大「弥生」臨界(10日) 7 動燃、英 AEA と MORZART 計画調印(8日) ○ 米国 ENDF/B-III 公開 ○ 原研 FACOM 230-60 増力(主記憶256kW×2) ○ RENDA が IAEA に移り、WRENDA となる
1972	3 JENDL-0次版案確定、JENDL-0 WG発足(17日) JAERI Fast Set の基のデータの格納開始 11 「第3回中性子断面積研究会」(9~11日、原研) ○ Safeguard 核データリクエストの作業を検討 ○ 28 FP 核種のデータ評価終了(中性子エネルギー 100 eV~15 MeV)	4 ENEA が NEA と改名(20日) 5 日本が NEA への正式加盟決定(9日) 8 原研増力リアック完成(8日) 12 ソ連の高速増殖炉 BN350 臨界(25日) ○ 京大炉リアック増力
1973	4 「燃料計量核データ専門部会」発足 ○ 捕獲断面積計算コード CASTHY を作成 ○ 核データ作図用コード SPLINT を作成 ○ JENDL-1 作成方針についての議論を重ねた	8 フランスの高速増殖炉 PHENIX 臨界(31日) ○ 英国 UKNDL-73 公開
1974	3 第17回 EANDC 会合(25~29日、東京) 3 「熱中性子炉用核分裂生成物炉定数の作成」学会技術賞受賞(31日) 4 崩壊熱核データWG発足、FP 崩壊熱の評価開始 6 JENDL-1 編集グループ発足(14日) ○ JENDL-0 完成	2 米国高温ガス炉フォートセントブレイン炉臨界 3 放医研医療用サイクロترون完成(31日) 8 原子力船「むつ」原子炉臨界(28日) 9 原子力船「むつ」放射線もれ(1日) 11 国際エネルギー機関(IAE)発足(18日) ○ ENDF/B-IV 完成
1975	3 27 FP 核種データ再評価終了(10^{-5} eV~20MeV) 9 学会会長より原子力委員長宛に「核データ整備の専門機関設置に関する要望書」出る(12日) 12 INDC 議長より原子力委員長宛に手紙「Japanese Nuclear Data Center」(17日) ○ ^{241}Am の核データ評価 (TRU 核種の評価の開始) ○ JENDL-1 の編集作業 ○ 炉定数作成コード PROF GROUCH G-2 開発	1 米国、AEC 廃止、エネルギー研究開発局(ERDA)と原子力規制委員会(NRC)が発足(19日) 2 米国、ENDF/B-IV 公開 6 原研 NSRR 臨界(30日) ○ EANDC、EACRP が NEANDC、NEACRP となる ○ 原研 FACOM-230-75 導入(主記憶1024kW×2)

年	シグマ委員会関係	関連事項
1976	<p>4 「核データ研究室」が「原子核データ室」として認可組織となる</p> <p>4 「核分裂生成物の核データライブラリーの作成と評価」学会技術賞を受賞(2日)</p> <p>8 「JNDC ニュース」を 37号より「核データニュース」と改題</p> <p>10 学会で informal meeting 開催(4日、原研東海)以後、(核データ・炉物理)合同特別会合として継続している</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ JENDL-1 編集終了 ○ JENDL-1 のベンチマークテストを行う ○ JNDC FP Fast Reactor Constant System 完成 ○ 「核図表」第1版作成(1977年2月発行) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 核構造データの評価(mass-chain 評価)が国際協力による評価体制で行われるようになる
1977	<p>3 JENDL-1 完成(72核種の核データを収録)(31日)</p> <p>5 「核データニュース誌」に定期刊行物としての番号(ISSN)が付く(通巻 39号より)</p> <p>7 「原子核データ室」が「核データセンター」と改名された(1日)</p> <p>7 専門部会組織再編。「核構造・崩壊データ専門部会」発足(15日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Mass chain 評価に参加(A=118~129) ○ シグマ研究委員会規約改訂 ○ JENDL-1 公開(秋) ○ 34 FP核種のデータ評価終了(JENDLには未格納) ○ JENDL-2 計画作成、評価作業開始 ○ 遮蔽炉定数作成コードシステム RADHEAT-V3 完成、遮蔽炉定数 JSD100 を作成 	<p>4 カーター大統領、新原子力政策に関する声明(7日)</p> <p>4 高速増殖炉「常陽」臨界(24日)</p> <p>9 原研「原子分子データ研究委員会」発足(1日)</p> <p>10 米国エネルギー省(DOE)発足(1日)</p> <p>12 NPT 保障措置協定発行</p>
1978	<p>12 「1978 年核データ研究会」(20、21日、原研東海)以降、毎年核データ研究会を開催している</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会話型核データ評価システム NDES を作成 	<p>1 OECD/NEA Data Bank 発足</p> <p>3 新型転換炉「ふげん」臨界(20日)</p> <p>4 動燃と米国 DOE による日米共同大型高速炉臨界実験(JUPITER Phase I)実験開始(~1979年9月まで)</p> <p>9 Int. Conf. Neutron Physics and Nuclear Data for Reactors and Other Applied Purposes(25~29日、Harwell)</p> <p>11 「第21回NEACRP会合」(6~10、東海)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ BNL NNCSC が NNDC と改名 ○ 「Table of Isotopes、第7版」発行

年	シグマ委員会関係	関連事項
1979	<p>3 日本の Mass chain 評価結果 (A=121) が「Nuclear Data Sheets 誌」に載る</p> <p>11 JENDL-2B 完成、JUPITER 実験の解析に供する</p> <p>11 「JENDL-3 検討小委員会」発足 (16日)</p> <p>12 「1979 年核データ研究会」(10、11日、東海)</p> <p>○ JENDL-3 計画の検討開始</p>	<p>3 米国 TMI 原発で事故 (28日)</p> <p>6 米国 ENDF/B-V 完成。一部のデータ除いて非公開となる</p> <p>10 Int. Conf. Neutron cross Sections for Technology (22~26日、Knoxville)</p>
1980	<p>12 「1980 年核データ討論会」(10、11日、東海)</p> <p>○ 「核図表 1980 年版」作成</p> <p>○ Fe 体系の 14 MeV 中性子漏洩スペクトルに対する JENDL-2 のテスト結果から、二重微分断面積の重要性が指摘される</p>	<p>○ 原研 FACOM M-200 導入</p>
1981	<p>1 「JENDL-3 検討小委員会」の答申が出る (16日)</p> <p>11 「1981 年核データ研究会」(26、27日、東海)</p> <p>○ JNDC FP 崩壊データファイル第 1 版完成 (1172 核種の崩壊データを格納)</p>	<p>3 原研 FNS 完成 (30日)</p> <p>7 米国レーガン大統領、核不拡散と平和利用協力に関し声明発表 (16日)</p> <p>8 (財) 原子力データセンター発足 (1日)</p> <p>○ NEA Data Bank、JEF-1 の編集開始</p> <p>○ 英国 UKNDL-81 公開 (UKNDL の最終版)</p> <p>○ ENSDF の管理が ORNL から BNL/NNDC に移る</p> <p>○ 阪大の強力 14 MeV 中性子工学実験装置「オクタビアン」による二重微分断面積の測定開始</p>
1982	<p>5 シグマ特別専門委員会内規改訂 (7日)</p> <p>6 医学用原子分子・原子核データWG設置、医学用データの検討を開始 (4日)</p> <p>11 「1982 年核データ研究会」(24、25日、東海)</p> <p>12 JENDL-2 公開 (89核種のデータを収録)</p> <p>○ JENDL-3 の評価作業開始</p>	<p>8 原研タンデム加速器完成</p> <p>8 JUPITER Phase II 実験開始 (~1983年5月まで)</p> <p>9 Int. Conf. Nuclear Data for Science and Technology (6~10日、Antwerp)</p> <p>○ 原研 FACOM M-380 導入</p> <p>○ IAEA/NDS で IRDF-82 編集し、公開</p>
1983	<p>11 「1983 年核データ研究会」(30日、12月1日、東海)</p> <p>○ JENDL-2 の改訂、ファイルの完全化作業</p> <p>○ JENDL-3 のための評価作業</p> <p>○ JENDL-3PR1 作成 (主要 8 核種のデータ収録)</p> <p>○ JNDC FP 崩壊データファイル第 1.5 版完成</p>	<p>2 原研 JT-60 本体組立開始 (22日)</p> <p>5 高速炉「もんじゅ」設置許可 (27日)</p> <p>6 EC の核融合実験装置 JET 運転開始 (25日)</p> <p>10 米上院、クリンチリバー増殖炉予算を否決、建設計画中止 (16日)</p> <p>○ 西独 KEDAK-4 公開</p>

年	シグマ委員会関係	関連事項
1984	<p>3 第24回 NEANDC 会合 (12~16日、原研東海)、NEANDC Topical Conf. (14日)</p> <p>3 JENDL-2 改訂版完成</p> <p>10 JENDL-2 のための FP 100 核種の評価終了</p> <p>11 「1984 年核データ研究会」 (13~15日、東海)</p> <p>○ 「核図表 1984 年版」作成</p> <p>○ Mass chain 評価、A=118~129 の評価を終了し第2回評価作業に入る</p> <p>○ 核種生成量評価コードシステム COMRAD と関連データライブラリー完成</p>	<p>10 西独 KEDAK-4 の修正版公開(KEDAK の最終版)</p> <p>12 原研 JT-60 通電試験開始 (10日)</p> <p>○ JEF-1 完成、JEF-2 の作成開始</p> <p>○ 原研 FACOM VP-100 導入</p>
1985	<p>3 JENDL-3PR2 作成</p> <p>3 「評価済核データライブラリー JENDL-2 の完成」学会特賞受賞 (28日)</p> <p>7 「核融合ニュートロニクスにおける核データ検討会」 (23~25日、原研東海)</p> <p>11 「1985 年核データ研究会」 (12~14日、東海) 中国とインドネシアからの参加あり</p> <p>12 JENDL-2 のための 100 FP 核種データの最終編集終了、JENDL-2 は格納核種 181 となる</p>	<p>3 つくば科学万博開幕 (17日、9月16日まで)</p> <p>4 原研那珂研設置</p> <p>4 原研 JT-60 ファーストプラズマ達成 (8日)</p> <p>5 Int. Conf. Nuclear Data for Basic and Applied Science (13~17日、Santa Fe)</p> <p>9 フランス高速増殖炉実証炉 super PHENIX 臨界 (7日)</p> <p>○ 中国 CENDL-1 完成</p> <p>○ 科技厅、近隣諸国との原子力研究交流制度開始</p>
1986	<p>3 JENDL 特殊目的ファイルの答申が出る (14日)</p> <p>11 JENDL-3以降の計画検討委員会の答申出る (7日)</p> <p>11 「1986年核データ研究会」 (26、27日、原研東海)</p>	<p>3 動燃、日米大型炉遮蔽ベンチマーク実験 (JASPER) 開始 (1992年9月まで)</p> <p>4 ソ連チェルノブイリ事故発生 (26日)</p>
1987	<p>11 「1987年核データ研究会」 (12、13日、原研東海)</p> <p>○ JENDL-3T の編集、積分テスト</p> <p>○ 標準炉定数 (JSSTD) の作成開始</p> <p>○ (α, n) 反応データファイルの作成開始</p>	<p>1 JUPITER Phase III 実験開始 (~1987年12月まで)</p> <p>4 学会「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会発足</p> <p>9 原研 JT-60 臨界プラズマ条件の目標領域に達成 (17日)</p> <p>11 IAEA/NDS が FENDL の作成を決める</p> <p>○ ソ連 BROND を公開</p> <p>○ 「群分離・消滅処理技術研究開発長期計画 (通称オメガ計画)」策定</p>

年	シグマ委員会関係	関連事項
1988	<p>5 「Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology」(30日～6月3日、水戸)</p> <p>9 JNDC FP 崩壊データファイル第2版完成(1227核種の崩壊データ格納)</p> <p>12 「1988年核データ研究会」(8,9日、原研東海) シグマ委員会 25 周年がトピクスとなる</p> <p>○ 「核図表 1988 年版」作成</p> <p>○ JENDL 放射化断面積ファイルのための本格的評価作業開始</p>	<p>1 JUPITER IO 実験(～1988年2月まで)、この実験で動燃と米国 DOE との日米大型高速炉臨界実験終了</p> <p>2 日本、国際熱核融合実験炉 (ITER) 計画参加決定(5日)</p> <p>3 原研 BITNET に加入</p> <p>9 Int. Reactor Physics Conf. (18～22日、Jackson Hole)</p>
1989	<p>4 核データ専門部会改組、光核反応データ、荷電粒子核データ、PKA スペクトルの評価を開始</p> <p>10 JENDL-3 完成(171核種のデータを収録)</p> <p>11 「1989年核データ研究会」(16,17日、原研東海)</p> <p>12 JENDL-3 公開(12日)</p>	<p>3 低温核融合の論文発表</p> <p>4 動燃と原電、「大型高速炉用修正炉定数の研究」開始(～1992年3月まで)</p> <p>8 学会「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会、「原子炉崩壊熱とその基準」発表</p> <p>10 OECD/NEA 核データ評価国際協力WG発足</p> <p>○ 核分裂発見 50 周年</p>
1990	<p>11 「1990年核データ研究会」(29,30日、原研東海) アジア地域シンポジウムと位置づけ、中国の研究者を招待</p> <p>12 JENDL-3.1 完成(172 FP核種のデータを追加し、全格納核種は 324 となる)</p> <p>12 「核融合炉用核データ専門家会議」(20,21日、原研東海)、JENDL-3 の核融合炉への適用性検討</p> <p>○ ESNIT 計画のため、50 MeV までの核データ評価を開始</p>	<p>1 米国 ENDF/B-VI 公開開始(26日)、最終的に 320 核種のデータを格納</p> <p>3 原研新 JRR-3 臨界(22日)</p> <p>4 Int. Conf. Physics of Reactors (23～27日、Marseille)</p> <p>6 NEA Data Bank、JEF-2 完成(309 核種)</p> <p>○ 原研 JT-60U 運転開始</p> <p>○ IAEA/NDS、IRDF-90 を編集</p>
1991	<p>7 JENDL Dosimetry File 完成</p> <p>7 JENDL Gas Production Cross Section File 完成</p> <p>10 「高エネルギー核データ専門家会議」(3,4日、原研東海)</p> <p>10 JENDL-3 第2改訂版(JENDL-3.2)作業開始</p> <p>11 「1991年核データ研究会」(28,29日、原研東海)</p>	<p>3 「原子炉崩壊熱基準の作成」学会技術賞受賞</p> <p>5 Int. Conf. Nuclear Data for Science and Technology (13～17日、Juelich)</p> <p>12 NEA の改組、第1回 NEANSC 会合(18,19日、Paris)</p> <p>○ 中国、CENDL-2 を公開(49 核種)</p>
1992	<p>5 NEANSC 「FP 核データ専門家会議」(25～27日、原研東海)</p> <p>11 「1992年核データ研究会」(26,27日、原研東海)</p> <p>○ JENDL-3.2 のための作業</p> <p>○ 「核図表 1992 年版」作成</p>	<p>2 NEA Data Bank、JEF-2.2 完成</p> <p>9 JASPER 終了</p> <p>○ ロシア BROND-2 公開(121核種)</p> <p>○ 核分裂炉 50 周年</p>

シグマ特別専門委員会歴代主査

百田 光雄	1963 年 4月～
塚田 甲子男	1974 年 6月～
原田 吉之助	1980 年 7月～
鹿園 直基	1985 年 6月～
石井 三彦	1990 年 7月～
中嶋 龍三	1992 年 7月～

シグマ研究委員会歴代委員長

百田 光雄	1963 年 2月～
塚田 甲子男	1974 年 4月～
原田 吉之助	1980 年 4月～
鹿園 直基	1985 年 4月～
石井 三彦	1989 年11月～

シグマ委員会年報

1963年～1964年	原子力誌、Vol. 7、(No. 5)、pp. 248～252 (1965)
1965年～1966年	原子力誌、Vol. 9、(No. 10)、pp. 604～610 (1967)
1967年～1970年	原子力誌、Vol. 14、(No. 2)、pp. 70～78 (1972)
1971年～1972年	原子力誌、Vol. 15、(No. 12)、pp. 832～842 (1973)
1973年4月～1975年3月	原子力誌、Vol. 17、(No. 12)、pp. 645～652 (1975)
1975年4月～1977年3月	原子力誌、Vol. 19、(No. 12)、pp. 814～821 (1977)
1977年4月～1979年3月	原子力誌、Vol. 21、(No. 11)、pp. 840～847 (1979)
1979年4月～1981年3月	原子力誌、Vol. 24、(No. 2)、pp. 122～130 (1982)
1981年4月～1983年3月	原子力誌、Vol. 25、(No. 12)、pp. 993～1003 (1983)
1983年4月～1985年3月	原子力誌、Vol. 27、(No. 12)、pp. 1114～1123 (1985)
1985年4月～1987年3月	原子力誌、Vol. 29、(No. 11)、pp. 982～991 (1987)
1987年4月～1989年3月	原子力誌、Vol. 32、(No. 1)、pp. 56～64 (1990)
1989年4月～1991年3月	原子力誌、Vol. 33、(No. 12)、pp. 1142～1150 (1991)

用語

核図表 Nuclear Chart: 原子核の半減期、崩壊形式等を分かりよい図にしたもの。シグマ委員会と核データセンターは 1976 年に「核図表」第 1 版を作成し、以降 4 年毎に改訂版を作成している。

特殊目的ファイル

Special purpose file: 特定の利用分野を対象にしてそれに必要な核データをまとめた 評価済核データライブラリー。JENDL 特殊目的ファイルは、

JENDL Dosimetry File

JENDL Gas Production Cross Section File

が既に公開されている。

4 センターネットワーク

中性子関係核データに関する情報交換のため下記の 4 つのセンターで作った組織。それぞれの担当国が決まっており、その中でのデータ収集・配布を行っている。

センター	担当国
National Nuclear Data Center (BNL、米国)	アメリカ合衆国とカナダ
OECD/NEA Data Bank (Paris、フランス)	欧州の OECD 加盟国と日本
Nuclear Data Center (Obninsk、ロシア)	旧ソ連
IAEA/Nuclear Data Section (Vienna、オーストリア)	他のセンターが担当しない国

Aldermaston and Winfrith Nuclear Data Libraries

英国 AWRE Aldermaston と AEE Winfrith で作成した評価済核データライブラリー。1950 年代から作成が行われ、1957 年から計算機処理が可能な形式でのファイル作成を行った。シグマ委員会活動の初期に 1963 年版を入手し炉定数作成に使用した。その後、UKNDL と称している。

BROND ロシアの評価済核データライブラリー。最新版 BROND-2 (1992 年公開) には 121 核種のデータが格納されている。

CCDN Neutron Data Compilation Center: 中性子データ編集センター (Saclay、フランス)。1978 年に計算機プログラムライブラリー (CPL) と合併して NEA Data Bank となる。

CENDL Chinese Evaluated Nuclear Data Library: 中国の評価済核データライ

	ブラリー。1991年に公開された CENDL-2 には 49 核種の評価済データが与えられている。
CINDA	Computer Index of Neutron Data: 中性子入射反応データに関する文献索引集。
CPL	Computer Program Library: 計算機プログラムライブラリー (Ispra、イタリア)。1978年にCCDNと合併しNEA Data Bankとなる。
EACRP	European-American Committee on Reactor Physics: ヨーロッパ・アメリカ炉物理委員会。OECD / EANDC の中の委員会。1975年NEACRPとなる。
EANDC	European-American Nuclear Data Committee: ヨーロッパ・アメリカ核データ委員会。1975年NEANDCとなる。
ENDF/B	Evaluated Nuclear Data File version B: 米国の評価済核データライブラリー。最新版 ENDF/B-VI は 1991年に公開、中性子反応断面積データとしては 320 核種のデータを格納している。
ENEA	European Nuclear Energy Agency: ヨーロッパ原子力機構。1972年、日本の正式加盟により NEA と改名。
ENSDF	Evaluated Nuclear Structure Data File: 評価済核構造データファイル。
ESNIT	Energy Selective Neutron Irradiation Test Facility for Material Irradiation Studies: 原研が進めている核融合炉用材料照射試験装置。
FENDL	Fusion Evaluated Nuclear Data Library: 核融合中性子工学用にIAEAが作成している評価済核データライブラリー。
FNS	Fusion Neutronics Source: 原研の核融合炉物理用中性子源施設。
FP	Fission Product: 核分裂生成物核種。JENDL-3にはAsからTbまでの主要なFPの核データが格納されている。
FP 崩壊熱	FP decay heat: 核分裂で生成する不安定なFPが、 β 崩壊や γ 崩壊で安定核種に移行していく過程で放出する熱エネルギー。
IAEA	International Atomic Energy Agency: 国際原子力機関。
IAEA / NDS	IAEA Nuclear Data Section: IAEA核データセクション。4センターの1つ。
INDC	International Nuclear Data Committee: 国際核データ委員会。IAEAの中の核データに関する委員会。
INDSWG	International Nuclear Data Scientific Working Group: INDCの前身。日本はその第1回会合(1963年)から参加していた。

- JAREI Fast Set 高速炉用炉定数セット。70 群と 25 群を用意した。
- JEF Joint Evaluated File: NEA Data Bank 加盟国が作成している評価済核データライブラリー。ENDF/B-V の主要データが非公開となったため、それに対抗して 1981 年より作成を開始。このため、英国の UKNDL と西独の KEDAK は評価・編集作業を止め、欧州の核データ評価の結果は全て JEF に集約される事になった。最新版 JEF-2.2 (1992 年改訂完成) には 309 核種のデータが格納されている。
- JENDL Japanese Evaluated Nuclear Data Library: 日本の評価済核データライブラリー。
- JENDL-0 JENDL 0 次版: JENDL 編集の経験を積むために JAERI Fast Set の基になったデータを編集したもの。
- JENDL-1 JENDL 第 1 版: 高速増殖炉用核データ 72 核種に対して、中性子エネルギー 10^{-5} eV ~ 15 MeV の範囲の評価値を格納したわが国初の本格的評価済核データファイル。
- JENDL-2 JENDL 第 2 版: 1982 年に公開。中性子エネルギー 10^{-5} eV ~ 20 MeV のデータ。その後 1985 年に評価・編集を終了した FP 核種のデータを含めて 181 核種のデータを収録。
- JENDL-3 JENDL 第 3 版: 高速炉、熱中性子炉、核融合炉、遮蔽等広い分野からの要求に応えられる様に、汎用性をもたせた JENDL の最新ファイル。324 核種のデータを収録。
- JENDL-3PR JENDL-3 Preliminary version: 核融合中性子工学研究のために作成した JENDL-3 の予備版。軽核や構造材核種など 8 核種のデータを格納。
- JENDL-3T JENDL-3 Test Version: JENDL-3 ベンチマークテスト用に編集した JENDL-3 の予備版。
- JENDL Dosimetry File
中性子線量計量用断面積をまとめた特殊目的ファイル。61 反応の断面積データとそれらの共分散データを格納して 1991 年に公開された。
- JENDL Gas Production Cross Section File
ガス生成断面積だけをまとめた特殊目的ファイル。1991 年に公開。
- JNDC Japanese Nuclear Data Committee: シグマ委員会の英語名。
- JNDC FP 崩壊データファイル
原子炉停止後の核分裂生成物による崩壊熱評価のための評価済データライブラリー。シグマ委員会崩壊熱評価WGが作成しているもので、最新版の JNDC FP 崩壊データファイル第 2 版には 1227 核種の崩壊データ

が格納されている。これを用いた崩壊熱総和計算の結果は、測定値と極めて良く一致する。なお、JNDC FP Nuclear Data Library と呼ばれることもある。

JSSTDL JAERI Shielding Standard Library。

KEDAK 西独の評価済核データライブラリー。1984年にその最終版 KEDAK-4 を公開した後、独の核データ活動は JEF に向けられた。

Mass Chain 評価

原子核の励起レベル等の核構造データを質量数毎に担当して評価する作業。国際的な協力体制で行われている。その成果は、ENSDF に格納され、Nuclear Data Sheets として発表される。また、これらを基にして編集された Table of Isotopes や Table of Radioactive Isotopes が広く使われている。

NEANDC NEA Nuclear Data Committee: NEA 核データ委員会。

NEACRP NEA Committee on Reactor Physics: NEA 炉物理委員会。

NEA Data Bank NEA データバンク: 4 センターの1つ。NEA CCDN と CPL が 1978 年に合併してできたもの。核データと原子力コードの収集配布を主要な業務とする。

NEANSC NEA Nuclear Science Committee: NEA 原子核科学委員会。NEA の組織変更で 1991 年に NEANDC と NEACRP をまとめて編成された。

OECD / NEA OECD Nuclear Energy Agency: 経済開発協力機構原子力機関。

Safeguard 核データ

核燃料計量用核データ。

UKNDL UKAEA Nuclear Data Library: 英国の評価済核データライブラリー。UKNDL-81 が最終版。その後は、JEF 作成に協力し、英国独自の評価済核データライブラリーは作成していない。

WG Working Group。

WRENDA World Request List for Nuclear Data: 核データ要求リスト。